

青く美しい星「地球」を再び

城南学園小学校 四年 坂田 政紀

地球の自然環境は、大変な事態になってきた。

二十一世紀前半には、環境保護の取り組みが始まっていたにも関わらず、地球温暖化が進み、森林の減少や干ばつが、年々進んでいる。大気や水の汚れも酷くなる一方だ。絶滅に至る動植物も多い。二〇世紀から問題になっていた地球の鉱物資源の減少は、二〇五〇年現在、目前に迫る深刻な問題になっている。

日本では、十年程前に宇宙太陽光発電システムの実用化に成功し、発電での二酸化炭素の排出は、抑えられるようになったが、費用の問題でまだ実用化に至らない国の方が多い。それらの国では、二酸化炭素の排出量は増えている。また、人間は便利になつた生活は、手放さない。日本でも電力以外の面では、石油などの鉱物資源の消費はまったく減つてい

ない。

宇宙から見た地球はぎりがかかっているように、輪かくもは「ギリしなくなってきた。

その一方で、ロケット技術は、二〇一〇年代に予想されていた以上に発達した。二十一世紀初めには、土星に行くのに八年以上かかるといわれていたが、非化学ロケットの開発が進み、太陽系を超えた探さくも、可能となった。

スペースコロニアの移住も始まった。

しかし、移住には費用がかかることや、生まれ育った地球をばなれることに抵抗や不安を感じている人も多く、ごく一部の人が移住していかない。

ほくは、今、太陽系を超えての探さくをする宇宙飛行士として働いている。ほくの宇宙探さくでの具体的な目的は、地球での発電や人々の生活に必要な物の原材料として利用でさく新たな鉱物の採取である。探さくの方法は、新しい星を見つけ、小型探査機をその星

に送り、地表の石などを採取したり、シロカ
で地面の中の反応を調べ、必要に応じて採掘
する。

ほくは、今回、いつもとは別の方向に出発
し、運よく新しい星を発見することかできた。
その星で、今までにない化学反応かできる鉱物
に出会った。宇宙船内の実験室で分析したと
ころ、その鉱物は、^燃焼の際に多大なエネルギー
ギンを出すか、二酸化炭素の排出はごくわずか
かであつた。ほくたちは、その鉱物をより詳

しく分析するため地球に持ち帰る事にした。
その後、ほくたちは地球に向がったか、途
中エンジントラブルが起きてしまつた。近く
た緑がかつた小天体があり、宇宙船が着陸可
能だと判明したので、その小天体に緊急着陸
した。その小天体に到着して、ほくたちはお
どろいた。外周およそ二キロメートルの星だ
が、一種類の植物が地表全体に生息していて、
水たまり位の池が何ヶ所かあつたのだ。試し
にその星の大気を分析すると、有害な力又か

少なく、酸素が二〇パーセント近くあること
 がわかった。地表や空中には、特に新しい鉱
 物等は見つからなかった。その植物を採
 取して宇宙船に戻った。エンジントラブルは
 無事に直り、ぼくたちは地球に帰還した。
 持ち帰った鉱物や植物は地球で、すぐに専
 門機関に送られ、詳しい分析がされた。ぼく
 は、また、未知の鉱物を見つけ出すために、宇
 宙へ飛び立った。

十年後、ぼくたちはあの時持ち帰った鉱物

による発電が可能となり、二酸化炭素をほと
 んど排出することのない発電が実用化された。
 地球からぼくたちが見つけた星に鉱石を定期
 的に取りに行く無人宇宙船が飛ばされるよう
 になった。

小天体で採取した植物は、丸一年かかって、
 大気中や近くにある水の中の有害、有毒な成
 分を取り除く働きがあることが判明した。ぼ
 くたちはその結果を聞いて、宇宙船の記録を
 たどり、緊急着陸した小天体に再び向かい、

その植物を採取した。様々な学者の研究によ
 リ、その植物を地球上で繁殖させることに成功
 した。その結果、大気中の有害ガスが減少し
 汚染されていた水もきれいになった。

宇宙から見た地球は、再び、輪かくがはっ
 きりして、青く美しい姿になってきた。美し
 ぎな取り戻しつつある地球を、宇宙からなが
 める観光ツアーもふられた。

地球のきれいな環境を完全に取り戻すには、
 まだ何十年も時間がかかるかもしれない。ほ
 るは、地球の環境を取り戻すきっかけにたす
 げられることかある。この仕事にやりがいを感じ
 ている。ほくは、宇宙でどのような星を見
 ても、地球が一番美しいと思う。ほくは、地
 球の環境を、とよくするたために、これから
 も宇宙探検とくきかん地りだ。